

阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会
2003年度第5回常任幹事会議事録

●日時
2003年12月6日(土) 15:00~17:00

●場所
阿佐ヶ谷美術専門学校 521号室

●出席者
秋元圭一 [会長]
西田一成 [常任幹事]
日野 高 [副会長]
甲斐光省 [副会長]
三浦嘉久 [常任幹事]
小山 弘 [常任幹事]
中島かおる [常任幹事]
大村政幸 [幹事]

●委任欠席
土橋洋一 (→秋元氏)
浅見 博 (→西田氏)
菊池 満
渡部征明 (→小山氏)
松岡和彦 (→秋元氏)
浜村圭一
五野勝弘
川島昭作 (→西田氏)
角谷祥子
岸 明美 (→西田氏)
藤原成理

常任幹事出席者7名・委任状欠席者11名
定足数成立

●議事進行
議長・進行/小山 弘
●書記/小山優子

●議題
議題1/
総会&パーティーの報告

議題2/
選挙と会則検討について

議題3/
その他

次回日程

議題1/総会&パーティーの報告

● 収入についての報告

受付担当の小山氏から「出席者は167名で、時間外(7時半過ぎ)の入場者は2名を加えて合計169名でした。会費収入は合計45万6千円で、内訳は事前受付の方から35万8千円、当日受付の方からは9万8千円でした。その他に寄付が17万円で、合計すると62万6千円の収入があった。また、スタッフの方への慰労会を新宿「土風炉」にて19日の20時30分から予定している」との報告がおこなわれた。続いて、費用の支払いに関して秋元氏から「浜村氏の持っている通帳から支払いするようにしているが、会場費の請求書が学校に来ていたため、同窓会宛で作成し直してもらっている。その為、正確な支払額がわからない状態だ。すべて終了した時点で小山氏が集計して、細かく区分化して最終データにする。通帳には62万6千円と補正で20万を追加、さらに絵画科の準備での追加分を5万入金してある」と述べた。「(西田)寄付金は次回お願いする目安にしたいので、内部資料として分けて記録しておいてほしい、また、交通費など、請求ができるラインを決めてほしい」との要望があり、「(秋元)メールですでに、交通費と自宅での作業代は金額を出してもらおうように連絡した。多い場合は話し合いで調整したい」とし、念のため費用の請求を再度メールで呼びかけることになった。

● 各担当の反省点と改善点

まず、小山氏がDM担当の角谷氏からのメールを代読した「前回参加した人から、同級生が少なかったのつまらないという声が多く、たった一人でも行って良かったと思える同窓会になる事が必要かと思う。準備期間は半年前から始めるくらいのゆとりがほしい。そうすれば一般会員からの展示物や販売品などの募集や色々な企画が出来たと思う。また、中心になっている幹事以外は作業が少なく、自分は出席しなくても大丈夫と思ってしまったのではないか。各担当のリーダーはできるだけ全体の把握と、指示に徹してほしかった。次回はパーティーの内容を楽しく伝えられる魅力的なDMを作りたいと思う」

続いてククローク担当の大村氏から「途中、預けてある荷物から名刺を取りに来た方が数名いた。看板と受付が離れていたせいか直接部屋に置こうとした方もいた。受け渡しは女性の方が安心のようだった。取手付きの袋は使いやすかったことと、衣類と鞆を一緒にして一人一個にしたのは正解だった。また、アルバイトへの説明が曖昧だった点が反省だが、アルバイト同士で打ち合わせしてスムーズにやってもらえた。司会の松岡氏が帰りにククロークが混むとアナウンスしてくれたので混乱しなかった。それと、前回ククロークをやった富澤氏の話聞いたのも良かった」と述べた。ここで経験者の意見は大切だということが話し合われ、今回の反省点を各担当でまとめ、次に残すために記録したらどうかなどが話し合われた。

受付案内担当の西田氏は「受付の場所の関係から会場内の様子がわかりにくく、浜村氏から『理事長の話が長いのでうまくまとめてもらえないか』と言われ、時計を指さして止める事ができたが、会場内にいれればすぐ対処できた事が最大の反省点だった。受付で誘導できたことは、先生をしていたので来てもらった方々に安心してもらえたと思う。訪ねて行く時に会場で探すのが大変だったので、卒業年度でテーブルを区分けしてほしかった。名札をパネルに並べるのはスムーズに処理できたと思う。もっと簡単にすれば経費節減できるかもしれない。総会に理事長の挨拶をいれるのは違和感があった。また、事務局長を学校の先生にも紹介してつなげていきたいので、受付担当にせず会場全体をくまなく見るポジションにしてほしい」と述べた。

DM発送の担当の中島氏からは「宅配業者をお願いしてコストダウンにはなったが、郵便局が持っている転送のメリットがいかなかった。また、再送された人は届いた事で返信ハガキに住所変更を書いてくれないことがあった。入稿は予定通りだったので印刷の段取りもうまくいった。パーティーのお知らせをもっと前から予告すれば集客率も上がったと思う。パーティー自体は出席した友人に聞いたら『良かった』と言っていたので安心した」と述べた。DM発送に関して「(小山)再送部分を担当して思ったが、一通につき5円のコストダウンなら、転送してもらえる郵便局の方が良い」などの意見があった。

受付担当の小山氏は「もう少し仕事を分散したかった。前々から準備していれば他のスタッフに振り分けられたのではないかと思う。受付業務は会費をもらって名札をわたすだけにするなど、誰でももっと簡単にできるようにしたい。それと、出席者のリストをパネル化して誰が来ているかわかる様にすれば良いと思う」と述べた。

その他には「(西田)担当のスタッフ達が食事を取れなかった。今回は配食係がいて回してくれた。それと、会員も新しい方々が増えるので、入り口の案内役などは今後、渡部氏、日野氏、松岡氏にかわりをやってもらいたい」「(三浦)開催を決定したのがギリギリで、直前になっても実務的な話より感情論ばかりだった。次回のパーティーは4年後の秋にやるなど早めに決めて、半年前には1回目の準備会などをひらくなどして計画を立てた方がよい。ゲストも早めに決めて広報活動をしたい」「(大村)スタッフなどの招集は、学年ごとの連絡幹事に声をかけてもらえるようにしたい」「(小山)今回、甲斐氏がハガキを出して絵画科の会員が14名で前回の5名から増えている。もう一押しは大事だと思った」「(大村)やるまであれこれ考えすぎて身にならない事ばかりに気をまわしていた。今回は骨組みが弱かったがこの経験を次回にいかしたい。イベントを考えるのに時間をかけすぎた。ホームページの意見交換は役立ったが、パソコンが手元にないと見られないのが問題」などの意見が交わされた。

委員長の秋元氏からは「実際に行動する為に動き出した期間から考えたら準備不足という感はいなめなかった。自分は委員長と会長という立場にいたが、パーティーのリーダーは浜村氏という事で、口出ししにくい部分もあったが、引っ張って行く人間が前の段階で見えて

いなかったのは大きな反省だと思っている。最後の方では役職に関係無く動ける人や、時間の自由な人にどうしても比重がかってしまった。ただ、色々な人が色々な役割で参加してくれて、経験を蓄積してくれたという意味では、今後のためにも大きな意味はあったと思う。アサビアワードという形で、会員を表彰するという具体的なものをやれたことも、同様の行事の時はこれをふくらましていけるのではないかと思う。また、ホームページを作ってもらった事で、その場でいなかった人にも緊張感や準備の状況は伝わったので次に生かせると思うし、4年前には無かったメールがとても役に立った。メールアドレスしかわからない人に送信した事によって住所変更や近況などもわかり、そういった積み重ねによって名簿やデータも更新していけると思う」と述べた。

その後再びパーティーに関する感想や意見交換がおこなわれた。「(西田)幹事で来ている人が少なかった。幹事の切り替えもやっていかないと活性化しない。いずれにしる同窓会の目的はパーティー開催だけではないと思う」「(秋元)今回、色々な人の話を聞くとクラス会を開いてくれたら参加するという意見が多かった。同窓会としてやるべきことではない」「(三浦)同窓会がやらなくても、ホームページ上でクラス会をやりたい人に各学年の名簿を送れるようなシステムがあると便利だと思う。ほかに同窓会に出席してもメリットが無いという意見があった」「(小山)主婦の方からの意見として、現役の人達ばかりで行きづらい、もっとなつかしい雰囲気があれば出席したいという意見もあった」「(三浦)テーマがハッキリしていないからそういう事になるのではないか。次回はきちんと考える必要がある」「(中島)テーマを決めてそれを全面に出せば多大な期待はしないと思う。パーティーのありかたはその都度、変わってよいと思う」「(秋元)最近の卒業生は返信ハガキも少なく意志も示さない。これから考えなければいけない事だと思う」「(三浦)パーティーを今後も維持していくべきか。若い世代には面倒だという意見が多い。継続するなら幹事会できちんと話し合いアプローチしていかなければいけない」「(秋元)今年の成果として絵画科とデザイン科をくぎっていたラインをなくせたとし、将来の会員の管理を分け隔てなくするきっかけになれば」などの意見があった。

議題2/選挙と会則検討について

● 会則検討委員会

担当の甲斐氏より「会則検討委員会を作るにあたり渡部氏、松岡氏、藤原氏に参加してもらいたい。この委員会ではたたき台の様なものを作りたい」との要望があった後、秋元氏も参加すると述べ、今後、このメンバーで検討をおこなっていくことになった。

● 選挙について

秋元氏から「都合により中島氏から三浦氏にお願いする事になったので引き継ぎをお願いした。今年度の選挙は前回と同じやり方で進める」と述べ、これを受けて担当の中島氏から「新幹事の確認は事務局にお願いして、作業は2月1日頃から始める。スケジュールは三浦氏と作成して事務局に渡すが、研究科は幹事を立てるのか？」との質問があった。「(秋元)最近幹事を出してもらっているが選挙に反映されていない。同窓生から研究科に入る人と外部から入る人の関係がはっきりしておらず、まだ問題点はある。来年日本装飾の第1期卒業生から幹事を出すかも学校と話し合わなければいけない」「(西田)学校に事務局をおいたのだから、それを含めて意見交換の場を持った方がよい。それと去年の選挙で幹事になって会議に出席しない人に、残り1年も同じ状況なのか確認してほしい。場合によっては次点の繰り上げでも良いと思う。常任幹事で無くても積極的に動いてくれる人を参加させたい。是非、会長と事務局で検討してほしい」「(秋元)参加していない人に意思確認をします。パーティーの時の掲示板はコミュニケーションが取りやすいので今後も使っていければ」と述べた。

議題3/その他

● 慰労会の出欠確認

再び次回のパーティー要望についての話し合いになった。「(三浦)学校をパーティー会場にしたらどうか」「(西田)懐かしさもあり出席者もふえると思う」「(三浦)学校側にもメリットがある」「(中島)卒業パーティーをやった事があるので可能だと思う」「(西田)一週間のカリキュラムをくんで最終日にパーティーをやってもいい」との意見交換の後、議長の方から慰労会の出欠を確認した。

● 卒業展について

次に同窓会賞をどうするか意見交換に入った。「(西田)今年度は卒展会場がバラバラで、一人が全部見るのは難しい。同窓会から出す賞は見送る事にしたらどうか」「(秋元)同窓会としてこの形態は良くないと意見してもよいと思う」「(日野)なぜこの形態になったのか聞く必要がある。しかし、その事と賞を出さない事を関係づける必要はない」「(秋元)予算立ててあるので、何か違う形であってもよいのでは?」「(日野)今回は基本的に従来通り賞を出す方がよい。手分けして見に行くなど方法論は考えなければいけないとは思いますが」「(三浦)次の幹事会の前に始まる卒業展もある。早急に担当を決めなければ」「(秋元)これ以降はどうするかを次の幹事会で決定する」「(西田)公平性からすると1人が見るのが良いが、現実的に無理だと思う。次回までに検討して下さい」と述べた。

次回日程

2004年1月31日(土)15:00~の幹事会日時の確認をして議会は閉会した。

● 議事録

書記/小山優子

校正・制作・文責/秋元圭一・小山 弘